

## キヤノン株式会社

### 2021年12月期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1.** 23年から配当性向50%を目安とし、5か年計画の最終年度である25年に160円の配当を目指すとの報道があったが、160円という水準をどう捉えればよいか。減配前の水準まで戻したいということなのか。また、金融危機後初めて期初の決算短信で配当予想を提示した意図やメッセージを伺いたい。
- A1.** 中長期的な利益の見通しや投資、キャッシュフローを総合的に勘案し配当する基本方針に変更はない。23年までに借入金を完済できると考えており、その際配当性向50%を目途としていく考えである。従って、25年の利益ベースでは、減配前の水準まで戻せることになる。配当予想を載せたのは、皆様からの声を反映させたためである。
- Q2.** プリンティングの22年計画で、オフィス、プロシューマーの台数がともに高い伸び率となる前提を教えてください。オフィスに就業者が増える一方で、在宅勤務者が減ることが想定されるが、インクジェット製品などの需要面での影響はどう考えているか。
- A2.** 22年は、製品の強い需要に加え、昨年の供給不足挽回分を含んでおり、高い伸び率となっている。在宅勤務については、今後も一定割合残るとみており、インクジェットについては今までのような水準は期待できないものの、高い需要は続くと考えている。
- Q3.** 販売費をあまりかけずに販売できる環境下で、なぜ22年の経費は増えているのか。
- A3.** 通常の世界の中に戻った際、販売費をかけずに売れるかは不透明であるため、今回の計画上では、昨年よりは使う前提で組んでいる。
- Q4.** 21年第4四半期のインダストリアルその他について、利益増の背景を教えてください。また、産業機器の計画を慎重にみている理由を教えてください。
- A4.** 5GやIoTなどの進展による市場拡大は続いており、当社の業績も好調な露光装置に牽引されて利益が増えている。産業機器については、コロナの影響で5G対応スマートフォンの買い替え需要が遅れており、パネルメーカーは投資時期を慎重に伺っているが、今後伸びてくると考えている。当社の中小型向け装置は圧倒的なシェアを堅持しており、投資再開時は強い需要が期待できる。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。